



## 知的障害児Aちゃんの対人関係の広がり： 旭川大学附属幼稚園での統合保育を通して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 天池, 優子, 川崎, 史園, 松村, 澄絵, 内島, 貞雄 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00008073">https://doi.org/10.32150/00008073</a>

## 知的障害児Aちゃんの対人関係の広がり —旭川大学附属幼稚園での統合保育を通して—

A Case Study of the Development of the Social Relationships of a Infant with Mental Retardation:  
The Integrated Education at the Asahikawa University Kindergarten

天池優子 (Yuuko Amaike) \* 川崎史園 (Shien Kawasaki) \*  
松村澄絵 (Sumie Matsumura) \*\* 内島貞雄 (Sadao Uchijima) \*\*\*

旭川大学附属幼稚園では、1976年から統合保育という形態で障害児保育を行っている。統合保育については、すでに多くの取り組みがなされ、障害児・健常児双方へのよい効果が報告されている。しかし同時に、障害児が取り残される、保育の流れが妨げられるなどといったマイナス面も指摘されている。そこで本論では、旭川大学附属幼稚園に入園以来、対人関係面においてめざましく成長した知的障害児Aちゃんに焦点を当て、統合保育の中で、Aちゃんの人間関係がどのような広がりを見せたのかを、天池による7ヶ月間の観察記録の分析によって追っていった。さらに障害児保育担当の保育者との面接を行い、観察を補うとともに考察を深めた。

(キーワード：統合保育 対人関係 知的障害 個別保育計画)

### 1. はじめに

現在、旭川大学附属幼稚園では11名の障害児を受け入れている。障害児は各クラスに所属し、クラス担任と3名の障害児保育担当者のきめ細やかなサポートを受けながら活動している。

今まで障害児教育に関わったことのなかった天池には、障害児と健常児がごく自然にふれあい、ともに育ち合う姿はとても新鮮であった。Aちゃんの成長は、他児の対応の変化にも一因があるのではないかと考え、健常児に対する幼稚園側の配慮についても注目して、Aちゃんの対人関係の広がりとその要因について考察する。

### 2. 観察の方法

Aちゃんについての観察は、6月から12月ま

で計22回、主に午前中の保育について行った。その際、天池はAちゃんのクラスに入り、クラスの子どもたちとも関わりを持ちながら、できる限りAちゃんと一緒に活動するよう心がけた。

観察においては、Aちゃんの対人関係面を中心とした行動とともに、Aちゃんに対する他児の対応についてもできる限り記録した。また6月以前の様子や、天池の観察では不十分な点を補うために、障害児担当の保育者からお話を聞かせていただいた。夏休み中の様子については、母親からお話を伺った。

### 3. Aちゃんについて

#### (1) 入園までの経過

Aちゃんは1994年9月生まれの5歳(1999年12月現在)の女兒で、両親と姉(小2)がいる4人家族である。生後4ヶ月でA病院においてウエスト症候群(てんかん)との診断を受け、以降4週間ごとに診察を受けている。3歳のとき

\* 北海道教育大学旭川校特殊教育特別専攻科

\*\* 旭川大学附属幼稚園

\*\*\* 北海道教育大学旭川校幼児教育学研究室

に児童相談所に相談し、障害幼児通園施設へ通うことになり、1年間通園した。通園中に施設の先生から「この子は集団の中での方がのびるだろうから、幼稚園か保育園に通わせてみてはどうか」とすすめられる。母親は、できれば自宅の近くの幼稚園に通わせたいと考えたが、他の母親らの意見を参考にし、旭川大学附属幼稚園に通わせることに決めた。幼稚園には、1999年4月から通い始め、現在に至っている。

#### (2) 入園当初の様子

入園当初のAちゃんには頻りに手を洗うというこだわりが見られ、生活全般において行動が遅く、走るときには前のめりになって転びやすいという特徴があった。また、手先が不器用で細かい作業が苦手で、利き手ははっきりしていなかった。発する言葉は単語で、会話が徐々に成立しつつある段階であった。個別指導の保育者に対してなど大人との関係はすぐにつくることができるが、表情が乏しく、他児との関わりはなかった。

#### (3) 家庭での様子

Aちゃんについては、幼稚園と家庭での様子に大きな差は見られない。明るく人懐こい性格であるが、少し飽きっぽいところがある。家庭においては、母親と一緒に遊んだり母親の後について家事の手伝いなどをすることが多い。姉はAちゃんが遊び相手にならないため自分の友達と遊ぶことが多いとのことである。しかし、近所に仲のよい同年齢の男児がおり、その子と互いの家を行き来したり公園に行くなどして遊ぶことは多い。

母親は今年の夏から仕事を始めたが、忙しい中でもAちゃんとの時間を大切にし、Aちゃんについては他の子と比較しないで、Aちゃんだけの成長を見るように心掛けている。

### 4. Aちゃんに対する個別保育計画

旭川大学附属幼稚園では、入園前に保護者が記入した発達表（詳しくは本紀要掲載の川崎史園の論文を参照）をもとに、障害児一人一人に

ついて1年の課題計画表を作成している。個別保育計画はその課題計画表に沿って、月案、週案、日案と細部にわたって計画され、指導後にはその反省と今後の課題について記録されていく。

Aちゃんについても発達表をもとに1年間の課題計画表が作成された。基本的な生活、ことば、人間関係、絵画人体、運動面、造形、認知、自然、運筆、地理、集団活動、自由遊びについて、それぞれ課題が設けられているが、ここではその中でも対人関係面に関連する重要な項目について取り上げ、その取り組みについておおまかに述べたい。

#### (1) 人間関係・集団活動

人間関係の面では、順番待ちができること、クラスの仲間とたくさん遊び、名前をおぼえることが課題として挙げられている。最初はお弁当を個別指導で行うなど、個別での活動を多くして先生の名前をおぼえ、幼稚園の生活に慣れるにつれて保育室での活動を増やしていくという方法がとられた。11月からはお弁当も保育室で食べるようにしている。

#### (2) 自由遊び

1年間の課題計画表では、先生と遊ぶこと、運動をたくさん行うことが課題として挙げられている。そのため自由遊びでは、1学期には散歩を中心として、ままごとやなわとび、砂遊びなど、外での活動を多く取り入れている。7月には水遊びも行っている。2学期にも散歩で公園や畑に出掛けるなど、積極的に外での活動を行っているが、9月や12月には体調をくずし、室内での遊びを増やしている。

#### (3) ことば

ことばの面での課題としては、あいさつや二～三語文が言える、絵本を見ることができる、自己紹介ができる、ひらがなのマッチングができる等のことが挙げられている。個別指導を通して、文字のマッチングや文字カードで読める文字を増やしていく指導が行われている。

## 5. 健常児に対する配慮

旭川大学附属幼稚園では、障害児に対し個別指導の面からのサポートとともに、集団での活動も重視している。その際には、健常児に対する働きかけも必要となってくる。そこでまず、幼稚園の取り組みを通して健常児たちがどのように障害児を受け入れていくのか、旭川大学附属幼稚園で長年障害児保育に携わっておられる松村のお話をもとに述べる。

はじめて障害児と出会ったとき、子どもたちは驚き混乱する。なぜみんなと一緒に行動できないのかなどの質問を次々と保育者に対して浴びせる。そこで幼稚園では、子どもたちが新しい環境に慣れて落ち着いてくる5月頃に、入園してきた障害児についての話をする。「○○ちゃんは、みんなよりゆっくり成長するんだよ」などと障害について説明し、「○○ちゃんががんばっているときは、手を出さないで応援してあげてね」といった対応の仕方についても触れる。説明はクラスごとと全体で2回行う。このことによって子どもたちは、自分たちと障害児の違いを次第に理解し、その存在を認めることができるようになるのである。

すると子どもたちは障害児に対して親切になり、進んでお世話をするようになる。このとき先生は、すぐに手伝ってあげるのではなく、声をかけて励ましたり見守ってあげることが大切だということを、状況に応じて具体的に説明していく。この段階を過ぎると、子どもたちは適切な援助の仕方を理解することができるようになる。しかし時には、障害児が自分たちと同じように活動できないことから、関わることを面倒だと思う子もいる。その際も保育者はあまり神経質にならず、障害児と健常児のトラブルも関係を形成していくうえでの1ステップととらえ、おおらかに対処するようにしている。

この他にも健常児が障害児の個別保育に興味を示した場合は、状況に応じて一緒に参加させるなど、自然に無理なく障害児を受け入れられるような配慮が日常的になされている。

## 6. Aちゃんの対人関係の変容

2に示した観察の記録を、Aちゃんの成長がわかるよう、おおまかに月別にまとめたものが別表である。これをもとに、Aちゃんの対人関係の変容を以下の3つの時期に区分して述べる。

### (1) 第1期 [4～5月]

入園当初のAちゃんは、表情も乏しく、他の子どもたちとの関わりも見られなかった。しかし、Aちゃんは入園前から週1回幼稚園に遊びに来ていたこともあり、保育者との関係はすぐつくることができた。天池とも初対面の段階から一緒に砂遊びをするなど、すぐに仲良くなることができた。

Aちゃんは全般的に行動が遅く、散歩のときも歩くペースが遅すぎて友達と手をつなぐことができなかったが、手をつなぐこと自体を嫌がることはなかった。

また、発することばは少ないが、自分の名前を呼ばれたときに返事をすることはでき、物の名前もゆっくりではあるが言うことができた。

### (2) 第2期 [6～9月]

このころからAちゃんの表情が豊かになり、「おはよう」と言って元気に登園してくるようになった。保育者全員の名前をおぼえ、自分からどんどん話しかけていくようになったが、友達に対しては関わり合いを持とうとせず、同じ場所で砂遊びをしている子とも会話はなかった(6/22)。手を引いてくれる女の子に対しても、無言で肩にしわを寄せ、ときには泣いてしまうこともあった。男の子にぶつかられたり、物を取り上げられたりすることもあったが、悲しげに天池を見上げるだけで何も言わなかった(8/21)。他の子どもたちと同じ場所で遊ぶことに対しては抵抗はないが、粘土遊びなどでも友達の作っているものに興味を示すことはなかった。自分が作った物については、「ほら、ケーキ」などと見せに来て、保育者が食べるふりなどの反応をすると喜ぶ様子がよく見られた。

9月のAちゃんは体調を崩して機嫌が悪いこ

別表 Aちゃんの観察記録

	対人関係の変容	具体的な事例	対人関係以外の成長	備考
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>名前を呼ばれると返事をする</li> <li>物の名前は言えるがゆっくり</li> <li>片づけができない</li> <li>表情が乏しい</li> <li>子ども同士の関わりは見られない</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>お弁当個別で</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と歩くペースが違いすぎて手をつなげない</li> <li>すべてにおいてスローペース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初対面の天池とも人見知りせず一緒に遊ぶ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>障害児について話す(全体・クラス)</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>表情が豊かになった(笑顔がふえた)</li> <li>クラスの活動は個別の先生と一緒にがんばる</li> <li>疲れてくると泣く</li> <li>「おはよう」といって登園する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女の子2人と砂遊びをするが会話はなし(6/22)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔が1回描けた</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>綱引きができない(1対1ならできる)</li> <li>大人との会話が多くなる</li> <li>先生の名前をおぼえ、親しみを持つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プール遊びは楽しんでいるが、一人。すぐ側にいる子とも会話はなし(7/6)</li> </ul>		
8		<ul style="list-style-type: none"> <li>あんどんを引くのが嫌でいつのまにか抜けて一人で砂遊びを始める(8/21)</li> <li>友達に縄跳びを取り上げられて半泣きになるが何も言わない(8/21)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みは母とプール</li> <li>近所の子と遊ぶ</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調を崩して誰に対しても怒りっぽくなる</li> <li>道具の貸し借りができる</li> <li>片づけの時間になってもやめない</li> <li>疲れてくると「ごめんね」と言っ て不機嫌になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天池に対し自分から「いっしょにあそぼ」と言う(9/14)</li> <li>みんなに「いってらっしゃい」と送られても反応なし(9/14)</li> <li>並ぶときに女の子が手を引いてくれるが、やや困惑気味(9/27)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セロテープきりができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会</li> <li>永山郵便局まで散歩</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の中に入っていくが長続きしない</li> <li>友達の名前をおぼえ、呼ぶようになる</li> <li>言葉が増え、意味のわかることをたくさん言うようになる</li> <li>母親が幼稚園に来ると離れない</li> <li>何でも自分でやろうとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数人の女の子が世話を焼くようになる</li> <li>天池と他児の会話に「Aもできるよ」と入ってきた(10/5)</li> <li>落ちていたタオルを拾い、名前を読んで「○○ちゃんの」と先生に渡す(10/15)</li> <li>個別指導のときみんなに「バイバイ」と手を振る(10/15)</li> <li>仲間づくりで自分から仲間を探す(10/18)</li> <li>天池と遊んでいるところに男の子が入ってきたために癇癇を起こし、男の子達に怒られる(10/25)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>てつぼう「前まわり」ができる</li> <li>めいろが少しずつできるようになる</li> <li>顔が描ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>畑で大根などの収穫</li> <li>カレーづくり</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の名前と顔が一致する</li> <li>絵本に集中できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不機嫌になると自分の頭をポカポカ叩く</li> <li>しゃぼんだまの液をぶちまけてしまい、数人の子どもたちに囲まれて泣く(11/22)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2回結びができるときもある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お弁当をみんなと一緒に食べる</li> <li>同じクラスにもう一人障害児が加わる</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>イライラして怒りっぽくなる</li> <li>自分のもの、という意識が強い</li> <li>同じクラスの障害児に対し、お姉さんのようにふるまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のものに触られると「これAちゃんのだよ」と抗議する</li> <li>仲間づくりのとき、女の子が「Aちゃんこっちだよ」と連れていく(12/6)</li> <li>みんなの前で2学期で一番楽しかったことを発表できた(12/6)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2回結びができるようになる</li> <li>つなぎを一人で着られるようになる</li> </ul>	

とが多く、誰に対しても怒りっぽかった。永山郵便局まで散歩に行ったときは、最初にはしゃいで飛び跳ねていたが、次第に疲れてきて不機嫌になり、天池に対しても「～っていったっしょ」と強い口調で言うこともあった(9/14)。しかし一方で、自分から「いっしょにあそぼ」と言いながら走り寄ってくることもあった。

### (3) 第3期 [10～12月]

10月頃になると、友達の名前をおぼえ、「いれてー」と言って友達に近づいていくようになった。しかし、Aちゃんが「あのね、えっとね」などと言っているうちにみんないなくなってしまうこともあった。以前は友達のしていることに興味を示さなかったが、女の子達が「アルプス一万尺」をしているのを見て自分も真似をしたり(12/6)、個別指導で保育室を出て行くときに自分から「バイバイ」と手を振ったりするようになった。

またなんでも自分でやろうとする姿勢が見られ、嫌なことをされると「やめてよ」と言えるようになった。しかし、自己主張ができるようになったことで、友達との摩擦も起きるようになり、泣いてしまうこともあった(10/25)。

また11月末にクラスにもう一人障害児が加わり、その子や他の障害児に対して、「〇〇くん、～しなさい」と言うなど、お姉さんのようにふるまう姿が見られるようになった。

## 7. 考察

### (1) 第1期から第2期へ

幼稚園入園は、Aちゃんにとって大変大きな環境の変化であり、集団行動になれていないAちゃんにとっては戸惑いの連続であったと思われる。その中でAちゃんは、いち早く保育者との関係をつくることができた。初対面の天池ともすぐに打ち解けることができたが、これはそれまで通っていた障害幼児通園施設で大人と関わっていた経験があったからだと考えられる。また幼稚園に日頃から短大生が来ており、見知らぬ大人が出入りすることに慣れていたこと

も、要因の一つであると考えられる。一方で、他児に働きかけることはなく、他児からの働きかけもほとんど見られなかった。他児も、入園してきたばかりのAちゃんに対してどのように接したらよいかかわからず、戸惑っていたものと思われる。

第2期になると、Aちゃんも幼稚園での生活に慣れ、笑顔が増えてきた。言葉も少しずつ増え、保育者や天池に対しては自分からいろいろなことを話しかけるようになった。他児に対して話しかけることはなく、同じ場所で遊んでも会話が成立することはなかった。しかし、他児の方はAちゃんの手を引いて場所を教えたり、「なにつくってるの」などと話しかける姿も見られた。Aちゃんが入園してから数ヶ月が経ち、また保育者から障害児についての説明が行われたこともあって、他児のAちゃんに対する積極的な働きかけがなされるようになったのである。

### (2) 第2期から第3期へ

第3期は、Aちゃんの対人関係が、大人との関係から子どもとの関係のめばえへと、著しい広がりを見せた時期である。その広がり of 転機は10月であったと考えられる。

10月には対人関係面以外でも、様々な成長が見られた。それは、言葉が増えた、読める文字が増えた、苦手だった手先を用いる活動がかなりできるようになった、などである。特に折り紙などができるようになったことで先生にほめられることが多くなり、そのことによって自信がつき、何でも自分でやろうとする姿勢につながったと思われる。このように、ある一面の成長が他の面の発達を促進し、対人関係面でも大きな広がりをもたせる契機になったと考えられる。

また以前に比べ、Aちゃんは友達のしていることに興味を持つようになり、自分の方からその中に入っていきようようになった。しかし行動が遅いことや、自分の言いたいことを上手く伝えられないために、長続きしないことが多い。せ

っかく一緒に遊んでいても興味が長続きせず、くるくると場所を移っていくこともある。そのためAちゃんに対してはまだ、彼女のペースに合わせてくれる大人の援助が必要であるが、ある意味わがままの通用しない子どもたちの中で揉まれることによって、Aちゃんの社会性はより一層広がっていくものと考えられる。

また11月からは、今まで個別指導の部屋で食べていたお弁当を、保育室でみんなと一緒に食べるようになった。保育室での活動に参加することも多くなり、同じクラスの子どもたちと関わることも多くなった。子どもたちもAちゃんがクラスの一員であるという認識をより強く持つようになり、仲間づくりの遊びなどでも「Aちゃん、こっちだよ」と手を引いて輪に入れる姿も見られるようになってきた。さらに11月末に障害児がもう一人同じクラスに加わり、その子についての説明が行われたことから、子どもたちは改めてAちゃんのこと意識するようになった。このことが、健常児たちの対応にさらに変化をもたらすのではないかと考えている。

## 8. おわりに

6月からAちゃんについての観察を行ってきたが、この7ヶ月の彼女の成長には目を見張る

ものがある。本論では、Aちゃんの成長過程には、他児の対応の変化が大きな要因となっていると考えたが、それは23年間試行錯誤を繰り返して、よりよい障害児保育のあり方を模索しつづけてきた旭川大学附属幼稚園の取り組みの成果であると考えられる。

## 謝辞

今回の研究を行うにあたり、その場を与えてくださるとともに、忙しい時間を割いてアドバイスをくださった旭川大学附属幼稚園の先生方、そしてAちゃんとその家族の皆さん、研究を支え協力してくださった皆さんに、心から感謝しお礼申し上げます。

## 【引用・参考文献】

- 1) 松村澄絵 (1997) : 旭川大学附属幼稚園の障害児保育. 情緒障害教育研究紀要. 第16号. P 93-100
- 2) 野田裕子・田中道治 (1993) : 統合保育における精神遅滞幼児と健常幼児の相互作用. 特殊教育学研究. 31 (3). P 37-43
- 3) 園山繁樹 (1994) : 障害児の統合保育をめぐる課題. 特殊教育学研究32 (3) 57-68